

令和元年度 第1回「生徒による授業評価」集計結果一覧
(R1.6/17～6/28実施)

質問項目

- (1) 毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
- (2) 単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
- (3) 単元(内容のまとまり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
- (4) 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
- (5) 他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
- (6) 授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
- (7) 授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

4:かなり当てはまる

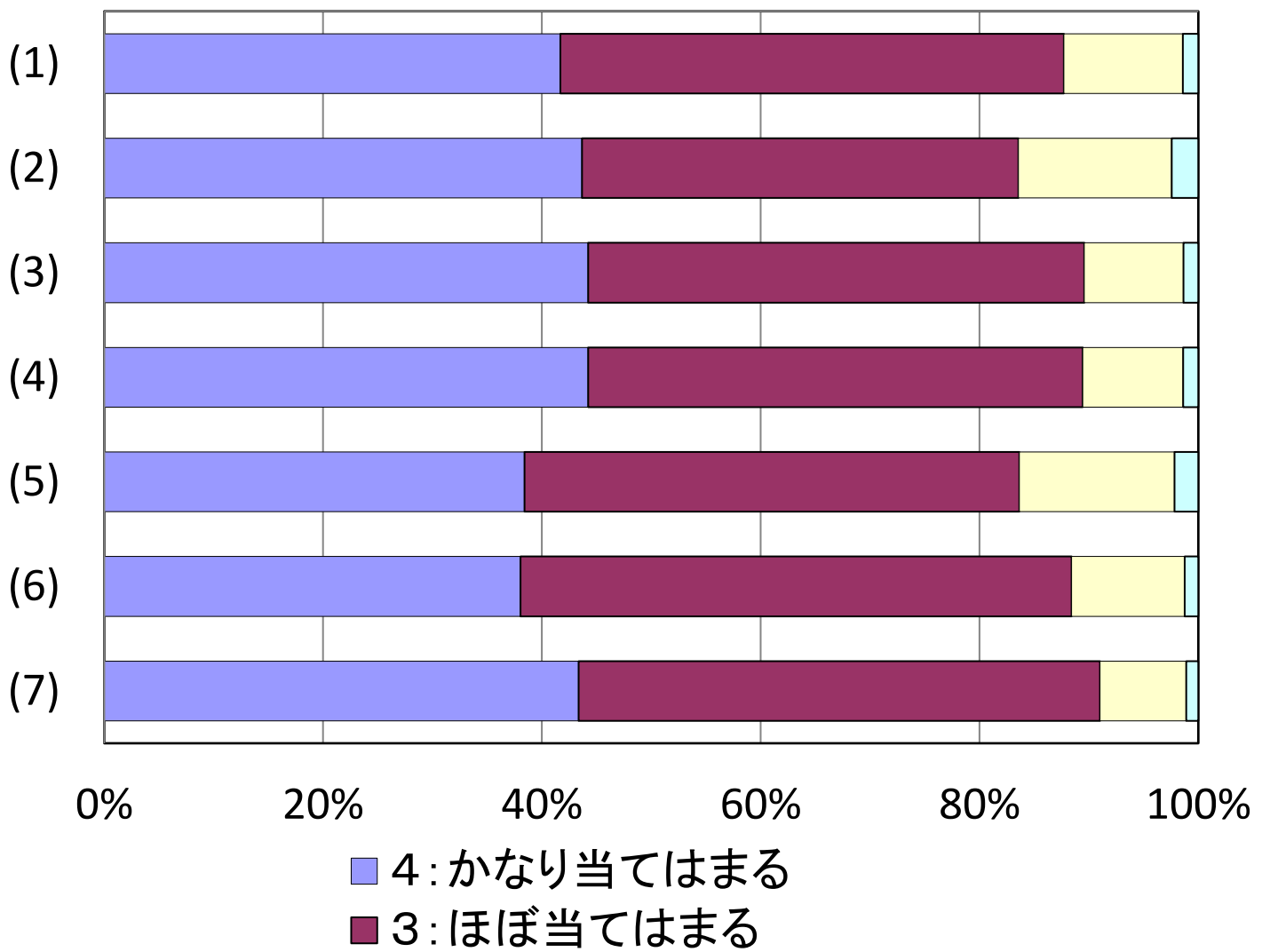
3:ほぼ当てはまる

2:あまり当てはまらない

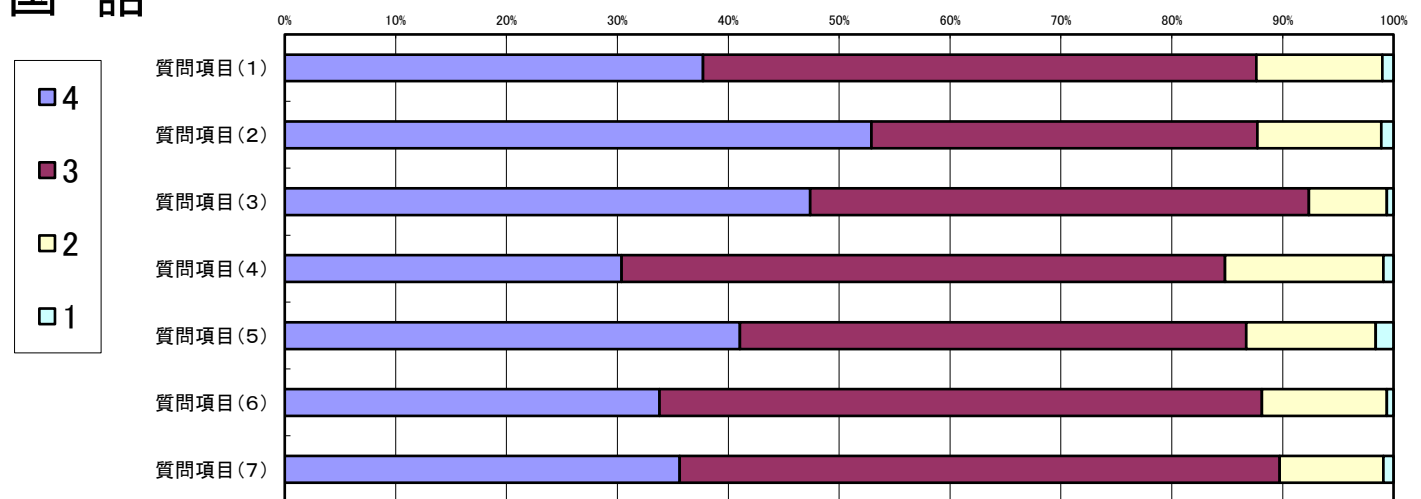
1:ほとんど当てはまらない

(記名式・各授業内で実施)

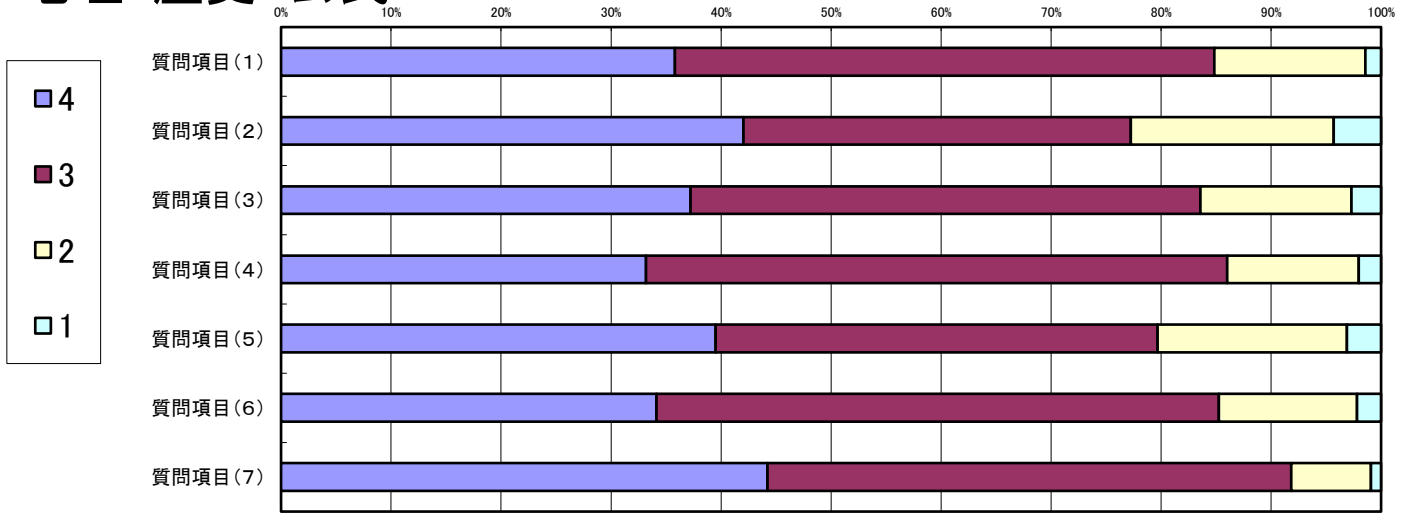
第1回 全教科集計



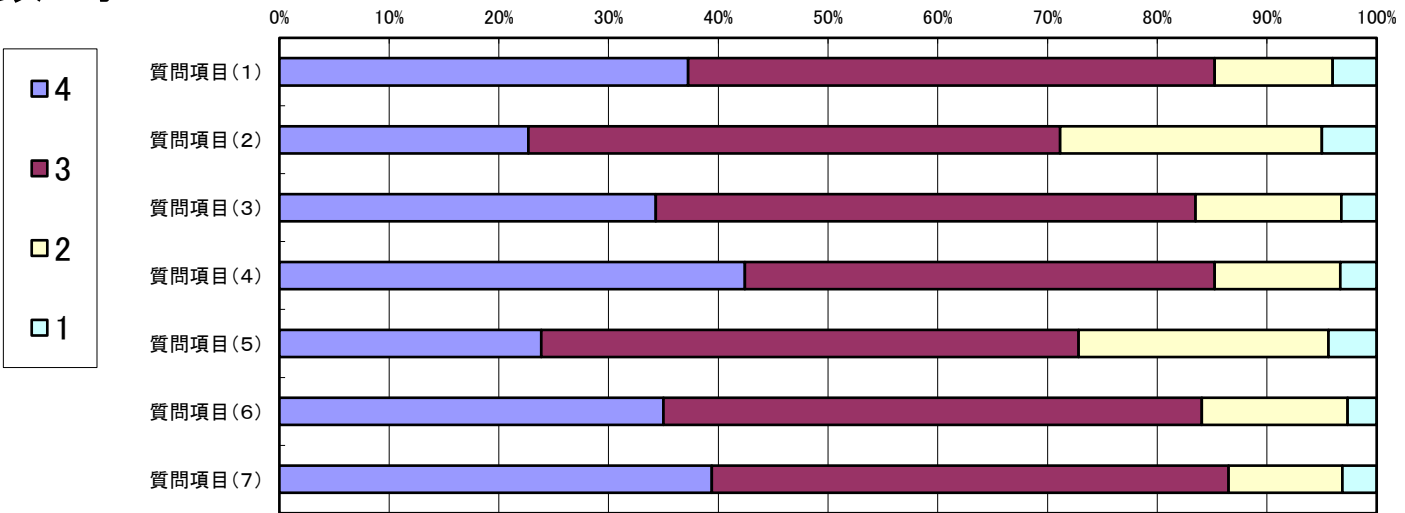
国語



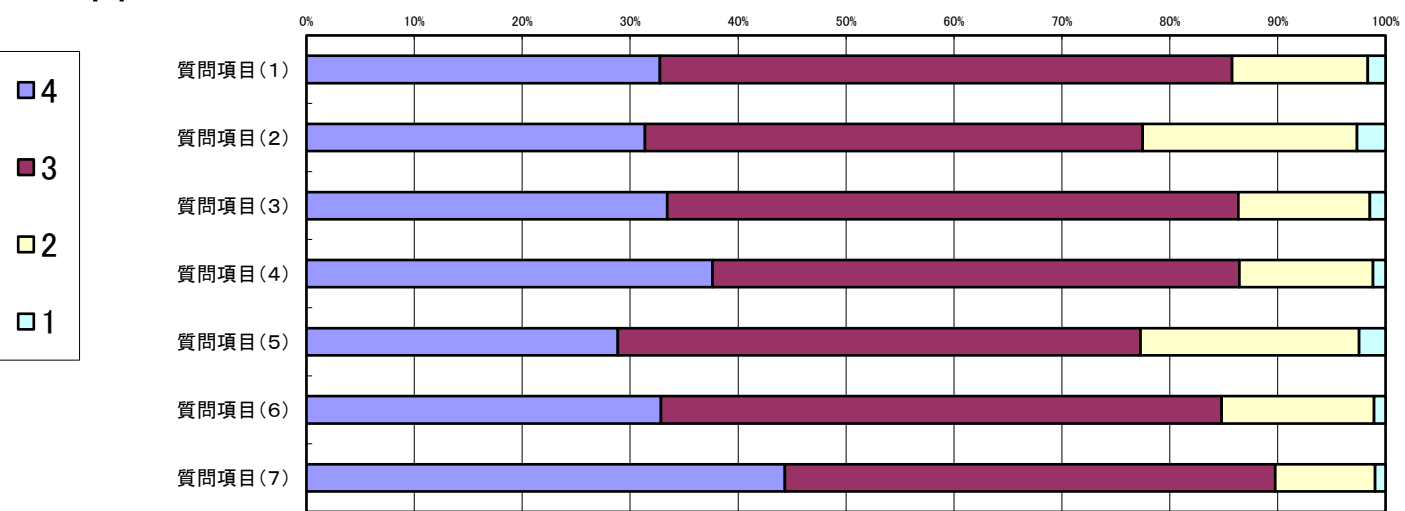
地理・歴史・公民



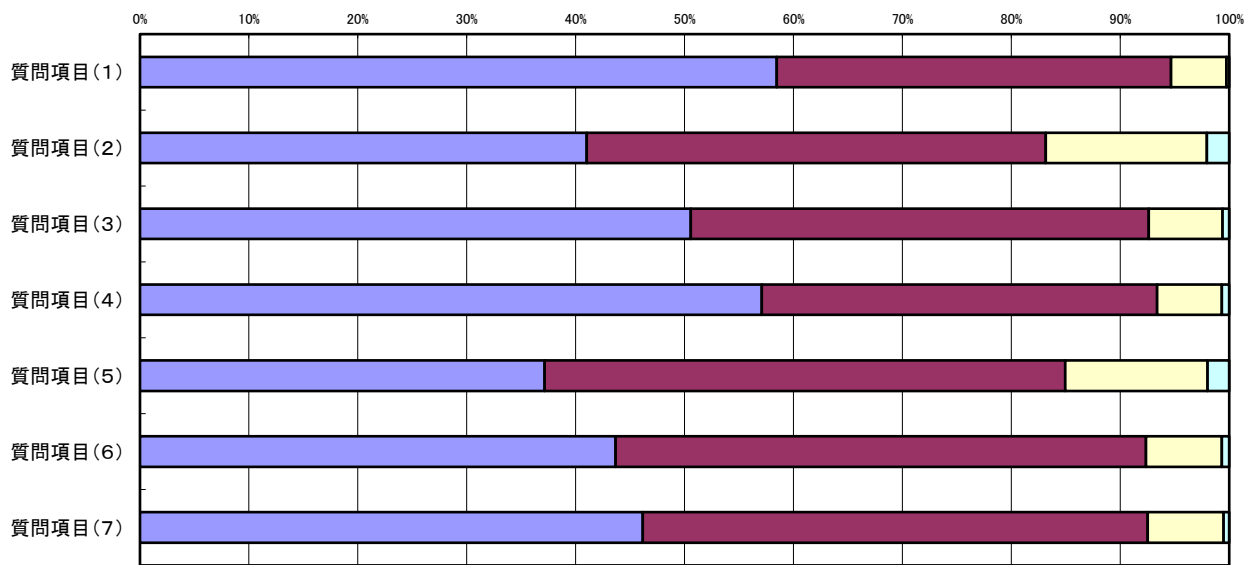
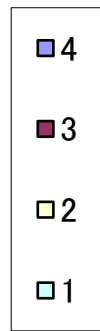
数学



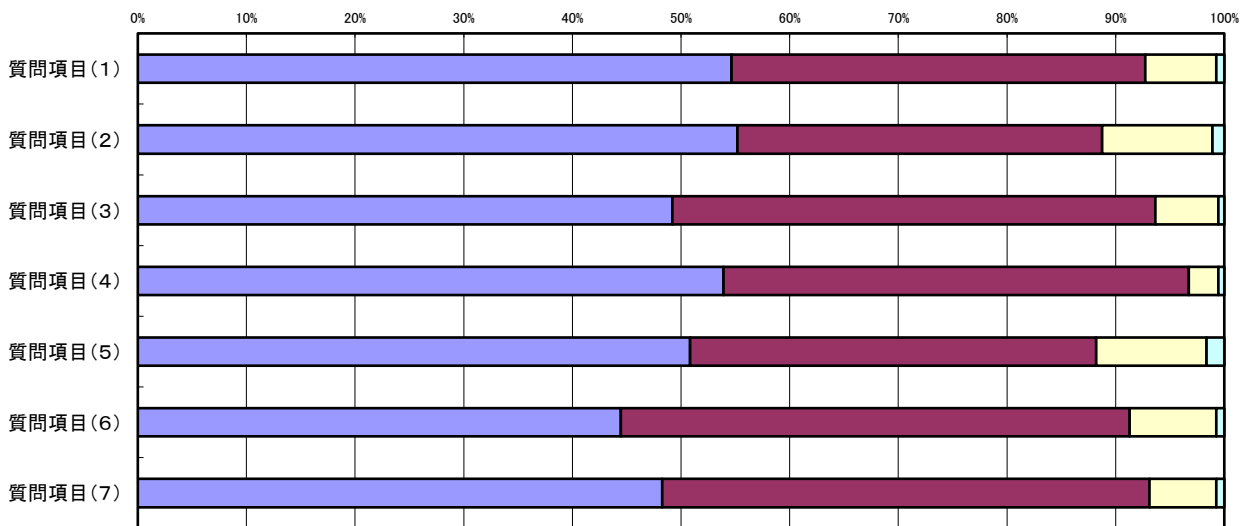
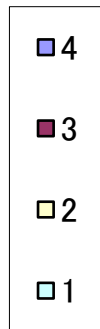
理科



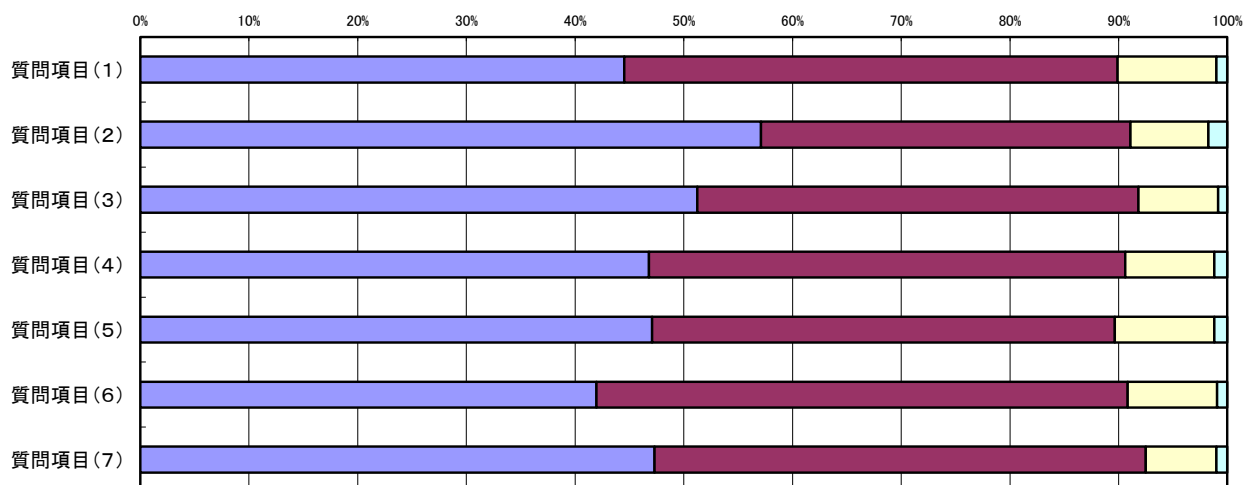
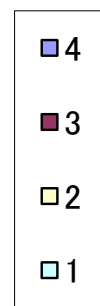
体育



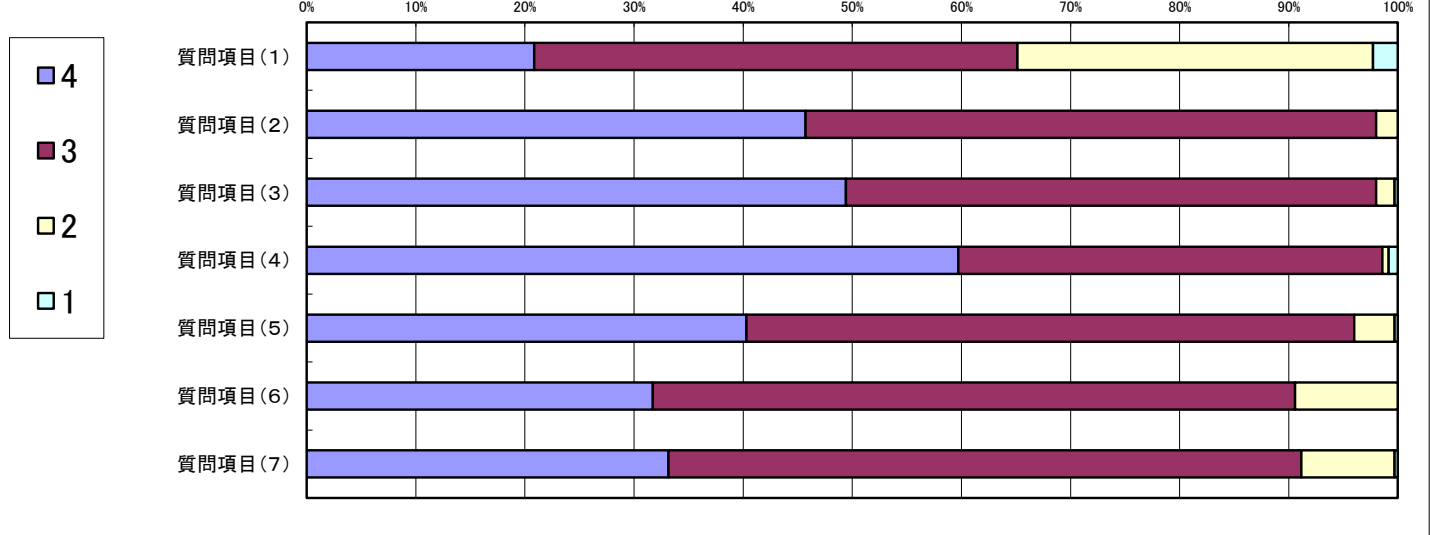
芸術



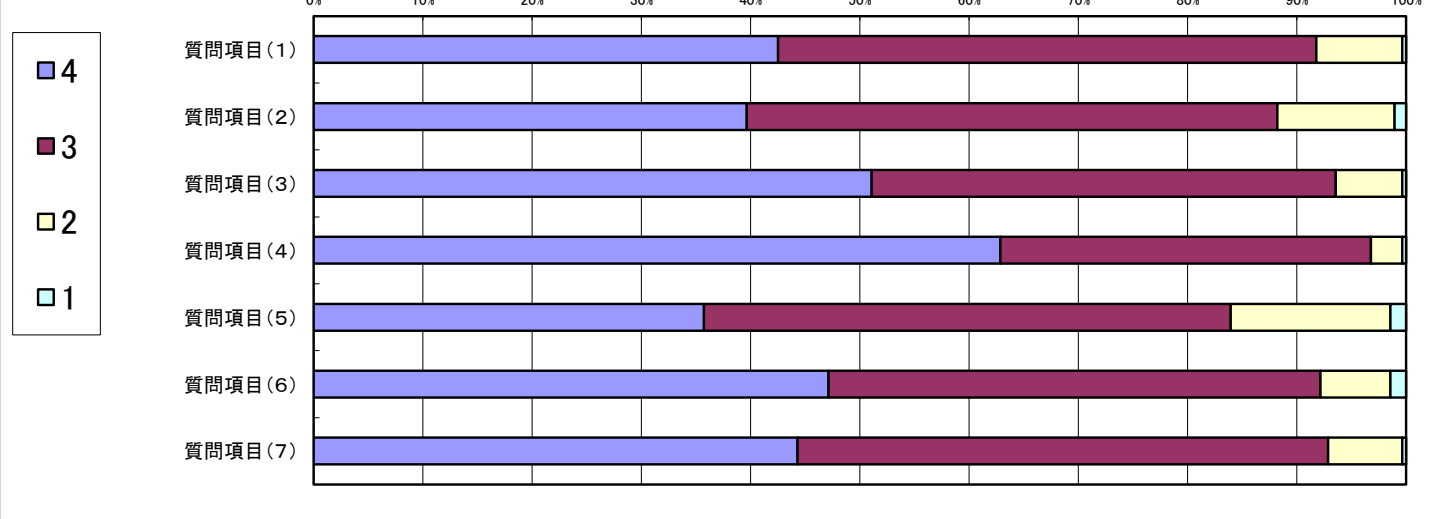
外国語・国際



家庭・看護



情報



令和元年度 第1回「生徒による授業評価」教科報告

教科	授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標の設定や説明、教材の工夫など満足度はおおむね十分である。 ● 授業内で生徒間での教え合いや話し合う機会が数多くあり、理解の助けになっているという評価である。 ● 古文・漢文の分野において、学習の到達度の差に開きがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究授業などを通して、よりよい教材の作成や方法を共有する。 ● 生徒間での学び合い、伝え合いを通して相互に学習の理解が深まるように努める。 ● 導入や教材の工夫をし、生徒の学習意欲を高め、着実に力をつけられるように心がける。 	
公歴 地 民 史 理	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度は概ね高い。 ● 科目によってばらつきがあるが、単元の学習の中で、他者の考えを知り、自分の考えを広げ深める機会をもっと増やしていく必要がある。 ● 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感できたという部分を、さらに高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業や単元のまとめりに、生徒に身に付けさせたい力を明確に示すようにする。 ● 生徒に発表させ、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深められるように授業改善を行っていきたい。 ● 単元ごとに演習問題に取り組みせたり、教科書だけにとらわれず、実際の判決などに基づいてディスカッションを行うなどの授業改善を行っていきたい。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体としての満足度は高い ● 対象学年が上がる科目につれて、満足度の低下が見られる ● 項目2・4について、低い回答者が多い(考えを深める、できるという実感) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部の不満を訴える生徒に聞き取りをし、意見交換を行う 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 他人の考えを知る、という部分が比較的低評価となっている。 ● 単元の最初にねらいを示す、単元後に振り返る時間がある、という項目も、比較的低評価となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表等の活動をさらに充実させられるよう、後期の授業案を精査する。 ● 単元の最初にねらいを示すことについては教科で徹底する。単元後の振り返りにおいては、どのような方法が適切か、教科会で話し合う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ● 各項目についてみると、おおむね生徒たちの満足度は高い。 ● 項目(4)について、若干当てはまらない場合があり、授業を消化できていない可能性が見受けられる。 ● 項目(2)および(5)について、科目によってばらつきがあるものの2割程度が当てはまないと回答しており、授業での工夫が必要になる。 ● 項目(7)について、4割以上が既習部分と関連付けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材研究を協同して深めたり、教科間で積極的に意見交換を行い、情報共有することでより効果的な授業をつくる。 ● 確認テストを行うなど、授業毎に整理を行い、知識を定着させる。 ● 単元の授業展開を工夫し、生徒が一人で取り組む部分と、他者と協同して考察を深める部分を少しずつ設定する。 ● 今後も既習部分を簡単に振り返るなど、単元ごとに切れないよう関連付けて授業展開を工夫する。 	
体 保 育 健	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度は概ね十分である。 ● 授業内で話し合う機会を活用して、お互いの理解をもっと深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 更に生徒の意欲を引き出せるよう、意見交換等を行い、よりよい教材の作成や方法を共有していきたい。 ● 班別活動での意見交換の方法を工夫し、自主的に活動する力を身に付けられるよう心掛ける。 	
芸術	音楽・演劇	<ul style="list-style-type: none"> ● 自らの考えを広げる機会をもっと広げる必要がある ● 授業の中ですぐに身に付けたり実感させることが難しい内容が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発言しやすい環境づくりにも力を入れたい ● 一朝一夕にはできるようにならないことを生徒に十分説明しておく
	美術・書道	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度は概ね高い。 ● 技能を高めることと知識、理解を深めることのバランスに配慮したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の意欲を引き出す課題や授業となるよう、技能の研修と意見交換等を行う。 ● 技能の指導を充実させるとともに、鑑賞、プレゼンテーションの機会を増やし、知識や理解を深める授業を工夫する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が十分に設定されている。 ● 授業で得た知識を、教科横断的に活用することがやや不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に各単元ごとにフィードバックをさせ、授業改善につなげる。 ● 普段から授業の中で、各分野の内容を結びつける発問をする。 	
家庭 看護	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度は概ね高い。 ● 「授業で学んだ事をそれまでに学んだことと関連付けること」に課題があるため、応用力や実生活に結びつける視点への支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術や知識の習得と、応用力への視野を広げる意識付け等のバランスを改善する。 ● 発言しやすい発問や環境づくりを考慮し、生徒が主体的に取り組める題材設定となるよう、教材を工夫する。 	